



国府台女子学院 小学部だより

市川市菅野3-24-1

Tel 047-322-5644

Fax 047-322-5655

<https://www.konodai-gs.ac.jp/>

自律心を高める

～生活規律の指導との関わりから～

生活規律というと、「決まりを守らせる」「違反を罰する」というイメージをもたれるかもしれませんが。実際、生活規律の指導（以下「生活指導」）に対して、厳しすぎるのではないかというご意見をいただいたことがあります。

しかし、小学部が生活指導を通して目指しているのは、児童が集団生活における規律の重要性を理解し、自分で考えて正しく行動できるようにすることです。決まりに違反したことを罰することが目的ではありません。生活指導に際しては「事実を正確に把握し、確認すること」「児童の思いをきちんと受け止めること」「今後の改善につなげることを重視しています。そして、より一貫性をもたせるために、今年度、生活指導の大まかな流れを次のように整理しました。

- ① 事実を確認する。
- ② 「児童報告書」に児童自身で記入する。行動の振り返りも行う。
- ③ 保護者に連絡する。
- ④ 担任、学年主任等でどのような指導をするのか協議する。
- ⑤ 担任または学年主任による指導を行う。

以上が大まかな流れです。②にある「児童報告書」とは、事実を(入)

10月行事予定

※4日市川まつりの鼓笛隊参加はなくなりしました。	23日 市川市陸上大会(5,6年生陸上部)入試準備
3日 休業日	24・25日 入学試験・判定会議
5日 仏教朝礼・任命式	26日 振替休日(10/25分)
6日 クラブ	27日 職員会議
10日 縦割り集会	28日 生き物教室(1,2年生)
12日 スポーツの日(祝日)	31日 秋の音楽集会※保護者参観できます。
13日 職員会議	
15日 校外学習(TDL)	
16～18日 休日	11月2日 仏教朝礼
19日 朝会	3日 文化の日(祝日)
4年生校外学習	
20日 クラブ	10月の学習ボランティア(4,5年生対象)
22日 職員会議	21日

(入)確認するための記録用紙で、自分の行動を客観的に振り返るものです。

生活指導の対象となるのは、例えば、学院生活に不要な物を持ってきた等、学院の決まりに反したときです、

また、指導が度重なる、他者への迷惑行為等、より重く反省を促した方がよいと判断した場合は、管理職も含めた振り返りの機会を設けています。これは、決してペナルティではなく、本学院の児童としての自覚をもち、自律心を高めることを願うための対話の場です。

挨拶をする、時間を守る、廊下を走らない、公共交通機関の中では静かにするといった当たり前の行動も、「叱られるからしない」のではなく、なぜ大切なのかを自分なりに考えて実践できるよう、普段から指導しています。

ご家庭でも再度「生活のきまり」をお子様と一緒に確認していただき、社会のルールを守ることの大切さを考えていただきたいと思います。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

主体的に参加した学院祭

学院創立100周年記念の今年の学院祭。児童会は手形アートを企画、全児童で制作し、また、6年生の共同作品は100周年の旗を飾ったお城でした。さらに、新たな企画として「読み聞かせ隊」による読み聞かせもありました。今年も、作品展示や児童会の係活動、クラブ発表等、児童が生き生きと活躍する姿が随所に見られました。自分たちのアイデアが形になって披露できたことは、大きな自信になったと思います。

毎年行列のできる育友会、喫茶や母の会サークルの素敵な展示、保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。

美しい日本語の話し方教室

5年生が、劇団四季による出前授業を受けました。現役俳優さんたちによる指導は、舞台を見ているようで、すぐに惹き込まれていきました。美しい日本語を話すためには、母音を大切にすること、そして何より相手に伝えたいという気持ちを大切にすることを学びました。秋の音楽集会では、その時に学習した「友だちはいいもんだ」を披露します。お楽しみにしてください。

『業(ごう)の呪縛』

9月になり新作映画『八つ墓村』(清水崇監督版)のCMを目にする機会が多くありました。しかし、『八つ墓村』というと、私の場合、どうしても1977年制作(野村芳太郎監督版)のキャッチコピー「たたりじゃ〜!」が忘れられません。その「たたり(祟り)」のインパクトが強い『八つ墓村』のあらすじは、戦国時代、戦に敗れた8人の落武者が、財宝とともに山村へ逃げ延びたところから始まります。しかし村人たちは、目の前の財宝と褒賞金という「煩惱」に目がくらみ、武者たちを惨殺してしまいます。死に際に、落武者の大將が「この村をたたってやる」と呪詛を残し息絶えるのですが、その後、首謀者の村の名主は発狂し、村人を斬り殺して自らの命を絶つのです。村人たちは祟りを恐れて落武者を手厚く葬り、その地は「八つ墓村」と呼ばれるようになるのですが、大正時代にも名主の子孫が狂気に陥って、村人32人を虐殺するという事件が起こるのです。これは、まるで怨霊の「祟り」によって引き起こされた猟奇殺人のように見えます。

しかし、この物語の真の恐ろしさは怨霊などではなく、己の利益や欲望のために他者を犠牲にする人間の「業(ごう)」の深さに他なりません。自らがまいた悪しき種(因)が、時を経て悪果となり己に返ってくるという「因果応報」の真理が、この惨劇の本質なのです。さて、この殺人事件の謎を解き明かす名探偵が金田一耕助ですが、彼は連続殺人がすべて終わるまで犯人を突き止めることができない探偵です。彼は、事件の渦中で悩みながら頭を掻きむしり、徐々に真実に近づいていくのですが、結局、未然に惨劇を防ぐことがほとんどできません。そんな彼は、犯罪に手を染めざるを得なかった背景や、人々の愛憎、血筋の呪縛に対して、常に「哀れみ」の眼差しを向けます。事件の真相を解き明かすことで、主人公を「殺人鬼の血筋」という思い込みの恐怖から救い出し、新たな人生へ送り出します。

一方で現代社会を見渡すと、人間の「業」は形を変え、社会の暗部に巣くい、ニュースに溢れる「闇バイト」や「トクリュウ(匿名流動型犯罪グループ)」による事件として現れています。SNSを通じて集められた若者たちが、目先の報酬に目がくらみ、罪のない人々の命や尊厳をいとも簡単に奪い去っていくのです。この構図は、400年前に財宝や報酬に目がくらんで落武者を惨殺した村人たちの姿と重なります。闇バイト組織の末端として匿名の陰に隠れたつもりでいても、仏教の教えが示す通り、自らが行った行為の報い(因果)は自分自身で引き受けることとなるのです。いつの時代も、真に恐ろしいのは得体の知れない祟りなどではなく、倫理観や道義を自ら踏み外し暴走していく尽きぬ欲望なのでしょう。だからこそ、社会や自らの心に潜む業に対して、金田一耕助のように頭を掻きむしりながら悩み、誠実に向き合っていくことが大切なのだと思います。

今月の目標「時間を守って、機敏に行動しましょう。」